

22 アルゼンチン

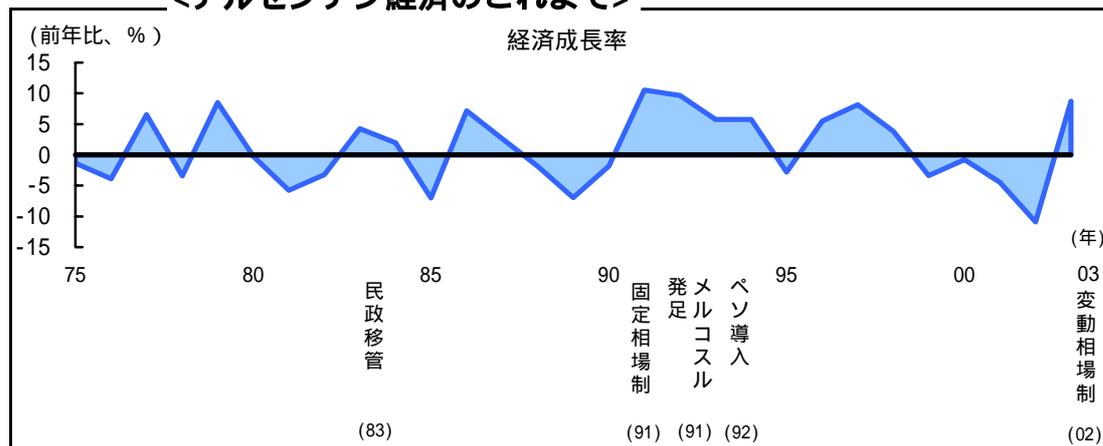
Argentine Republic

<2003年>

人口 3,798 万人
(日本の約1/3)
一人当たりGDP 2,687 ドル
産業構造(GDP構成比) 1次産業 11.0 %
2次産業 34.6 %
3次産業 54.4 %

財政会計年度 1月～12月
為替制度 変動相場制(注)
通貨 ペソ
1米ドル=2.9ペソ
面積 273.7万km² (日本の約7倍)

<アルゼンチン経済のこれまで>



アルゼンチンの主要経済指標

		93～02年	2003年	2004年		2005年		民間機関
				政府	IMF	政府	IMF	
実質GDP	前年比%	0.1	8.7	6.5	5.5	4.0	4.0	実質GDP
鉱工業生産	同上	1.7	1.3	-	-	-	-	2004年
消費者物価	同上	4.2	13.4	-	6.7	-	9.5	平均 7.3
失業率	%	15.0	17.3	-	-	-	-	最大 8.5
経常収支	億米ドル		79.4	-	68.6	-	26.8	最小 6.0
(GDP比)	%		(6.1)	-	(4.6)	-	1.6	2005年
財政収支	億米ドル		4.5	-	-	-	-	平均 4.1
(GDP比, 年度)	%		(0.3)	-	-	-	-	最大 4.5
政府債務残高	億米ドル		1,788	-	-	-	-	最小 3.5
(GDP比, 年度末)	%		(138.0)	-	-	-	-	(7社)

(備考) 1. アルゼンチン経済省、IMF “International Financial Statistics”、データストリーム。

見通しの政府は財務省(2004年9月)、IMFは“World Economic Outlook”(2004年9月)による。

2. 実質GDPの93～02年は94～02年の平均、鉱工業生産の93～02年は95～02年の平均。

3. 失業率は2003年から推計方法が改定された。

<2004～2005年の経済>

2004年前半の経済成長率は、為替レートの安定に伴う物価上昇率の安定を背景に個人消費や民間投資が拡大したことから、前年同期比9.0%増となった。国内需要の急増に伴って年初より電力不足の問題が顕在化し、その影響が懸念されているものの、基調としては経済は引き続き好調を維持するものと見込まれる。

2005年の経済成長率は、内需の回復を背景におおむね安定した成長を維持するという見通しから、4%程度の成長が見込まれる。一方、下方リスクとして、金融システム再建や対外債務再編交渉の遅れから外国からの資本流入が低迷し、設備投資が伸び悩むことを懸念する見方もある。

なお、対外債務問題については、アルゼンチン政府は6月に「延滞金利を再編対象に含む」という新たな債務再編案を提出したが、債権者との意見の隔たりは大きく、再編交渉は長期化する見通しである。